

# 孫の手通信



## 第30号

平成26年2月20日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475(47)3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

## 12月議会開かれる

昨年12月5日に開かれた第4回一宮町議会定例会は補正予算の他、全ての議案を可決して閉会しました。補正予算の主な内容をお知らせします。

### 平成25年度一般会計(第5次)補正予算

補正額 1億899万7千円

○児童生徒表彰記念品 18万円

学芸やスポーツで優秀な成績を収めた小中学生を3月議会にて表彰するための記念品代です。

○町道1・2号線 災害復旧工事 1999万9千円

9区の2の細田堰に接している町道1・2号線が台風26号により決壊したため、国庫負担により災害復旧工事を行います。

○商工会補助金(トイレ改修工事) 198万5千円

商工会の公衆トイレを和式から洋式に改修するために補助するものです。

○東浪見保育所改修工事 117万6千円

外壁の雨漏り改修工事を行います。

○一宮学童わんぱくクラブ準備経費 120万6千円

放課後の学童保育について、現在は一宮小学校と東浪見小学校の特別教室を利用して行っていますが、26年度は一宮小学校の利用者の大幅な増加が見込まれるため、振武館の和室を改修して利用します。そのためのエアコン設置、備品購入代等です。

○災害対策事業費 1360万円

災害時の避難所である、一宮中学校体育館とGSSセンターの駐車場に非常用の照明灯を設置すると共に、GSSセンターと振武館の和式トイレを洋式に変更し、振武館の給湯器を交換します。いずれも国の緊急防災減災事業を活用して対応します。

### 平成25年度国民健康保険事業特別会計

#### (第3次) 補正予算

補正額 5418万4千円

医療費が当初の見込みより大幅に増加したため、基金を取り崩して補正したものです。

### 固定資産評価審査委員の推薦同意

固定資産評価審査委員に細谷俊夫さん(新地区)を推薦することに議会の同意をいただきました。任期は3年間です。

一般質問では7名の議員の方から質問をいただきました。詳しい内容については、「議会だより」や町のホームページにある会議録をご覧ください。

## 台風26号と大雨への対応

昨年10月15日の台風26号によってもたらされた町

内の被害は道路冠水15カ所、床上浸水1世帯で、続く10月20日の大雨では道路冠水13カ所でした。被災された方へお見舞いを申し上げますと共に、被害を比較的軽微にとどめた消防団はじめ関係者の皆様に感謝を申し上げます。

台風26号の際は16時45分に注意配備体制を発令し、その後公民館の和室を自主避難所として開設しました。雨量や一宮川の水位などの情報を踏まえて翌朝5時30分に警戒配備体制に切り替え、職員の動員数を増やして道路冠水箇所バリケードを設置し、道路パトロール等に当たりました。

10月20日の大雨の際は台風26号の反省に基づいて早めの対応に努め、11時に警戒配備体制を敷いて現地パトロール、バリケード設置、土の運搬等を行いました。加えて道路冠水、自主避難、避難所開設のお知らせを、防災無線やエリアメール配信を利用して行いました。今後は予め浸水危険区域等を設定した上で、地区を限定して避難を呼びかけるといった取り組みを検討していきます。

## 一宮川の堤防かさ上げ

津波から住民の生命と財産を守ることを目的に、千葉県は一宮川河口から中之橋区間まで堤防のかさ上げを計画しています。これを受けて町は県に説明会を要望し、まず5月に町議会と区長会で説明会が開かれ、次いで9月に堤防かさ上げ対象地区の海岸区、船頭給区、15区、16区でも住民向け説明会が開かれました。

ただ依然として多くの町民がこの事業の詳細を知らない上に、既に説明を受けた方々からも事業に対して具体的なイメージを持ってないというお話もうかがいました。そこで町の「広報いちのみや」12月号で工事の概

要とイメージ図を掲載すると共に、町民全体に対する説明会を県に改めて要望しています。

11月19日の「知事と市町村長との意見交換会」では、森田健作千葉県知事に対して町から景観と利用についても十分に配慮して事業を進めるよう要望し、知事からも町とよく話し合って進めていくとの回答をいただいています。また年末には長生土木事務所長にかさ上げした場合の具体的な問題点を示してその対策を要望しました。

## 一宮川に残る中洲

宮原地先の一宮川に依然として残る中洲について、12月定例県議会で次のような議論がありました。

○鶴岡宏祥千葉県議会議員（茂原市選出）

「一宮川の中洲及び半島のように残っている部分について、早急に整備されたいと思うがどうか」

○小池幸男県土整備部長

「一宮川下流部には、3カ所の土地が残っています。延べ700名が関係する共有地であり、500名ほどの持ち分を取得したところですが、残る200名の所有権がまだ取得できない状況です。現在、用地の取得について、同意をいただくべく、鋭意努めているところです。今後とも早期に用地取得の上、整備を進めてまいります」

○鶴岡宏祥議員

「この中洲及び半島として残っている土地部分の用地取得については、早期に解決する必要があると思います。本来、すでに工事とともに終了していなければならぬ大きな事案であり、延べ700名が関係する共有地ということで、早く解決しなければ年々相続が発生し、関係

者が増え、さらに手続きが困難になるという、難易度が非常に高い事案です。そこで、用地交渉の専門家を登用し、法的な手続きについても視野に入れ、さらに積極的な事業推進を図っていただきたい」

一昨年発行の本紙26号でもお知らせしました通り、町は一宮川の河川整備事業の主体である県に対し、中洲の撤去を再三にわたって求めてきました。一日も早く中洲を撤去して不安の無い状態にするよう、改めて県に強く要望してまいります。

## 工事が進む下の原道路の歩道整備

役場下の記念碑前から綱田入口の交差点付近

を約3・5キロにわたって南北につなぐ下の原道路（町道1-10号線）は交通量が非常に多く、スピードを出す車もしばしば見うけられます。東浪見小学校の通学路に指定されているにもかかわらず歩道が設置されていないため、その危険性がかねてから指摘されてきました。そのため町議会でも歩道の整備が強く要望されてきました。が、財源の確保ができず長年の懸案となっていました。

ところが、平成24年度の国の補正予算でとりまとめられた「日本経済再生に向けた緊急経済対策」を活用することで、総額約2億8000万円の事業を国からほぼ100%の

補助率で整備できることになり、今回工事に着手することになりました。

測量業務、設計業務を終え、現在は順調に歩道整備工事が進んでおり、3月末までには全ての工事が終了する予定です。

完成すれば子どもたちが安心して通学できる環境が整えられるだけでなく、増える傾向の車両にとっても安全に移動できるようになります。また万一の津波等の災害時にも避難道路として大きな役割を果たすことが期待されます。

平成25年11月29日 三陸新報

気仙沼市に派遣された一宮町役場職員が地元紙で紹介されました

## 「船にがんばる復興の助っ人たち」

被災地支援のため、千葉県長生郡の一宮町役場から、

「少しでも力になりたい」と気仙沼市役所への派遣を希望した。10月に着任し、危機管理課で被災者生活再建支援金の受け付けなどを担当している。

支援金の申請に訪



千葉県茂原市出身。実家を離れて初めての1人暮らしは、手頃でできる鍋料理が気に入る。「温かくて親切」な同僚から方言を教わっている。

## 「危機管理を学びたい」

千葉県一宮町から気仙沼市へ  
おとな 豪さん（28）

年間出向した経験も。町内にある九十九里浜はサーフィン

く、みんな頑張っている。応援職員だとも、逆に励まされたい。今月2日の市防災訓練では災害対策本部で電話連絡係を担当し、詳細な事例に基づいた訓練内容に緊迫感に驚いたという。休日には、イベントに積極的に参加しながら、気仙沼の魅力を体験。震災から2年8カ月が過ぎても被災建物の基礎が残っていることに、感謝の言葉 気仙沼市危機管理課の吉田信一課長「希望して来てくれた感謝しています。すぐに職場に溶け込み、仕事も安心して任せられる人材です。被災地の訓練を学び、一宮町で生かしてください」 毎週金曜日に掲載